



青年海外協力隊マレーシア会 23号

## 青年海外協力隊マレーシア会に参加させて頂いて ～OV会に期待すること～

青年海外協力隊事務局  
事務局長 橘 秀治

OV会の皆様には日頃から JICA 海外協力隊員や合格者等の方々に対しまして温かなご支援を頂いていること心から御礼申し上げます。

2023年9月17日に開催されました青年海外協力隊マレーシア会の第六回総会に参加させて頂き、植山明日香さんの素晴らしい活動報告をお聞きするとともに諸先輩方と意見交換をさせて頂く中で、OV会の素晴らしさを改めて実感させて頂きました。

さて、2020年3月に新型コロナウイルスの感染拡大により隊員の一斉一時帰国が実施された後、同年11月のベトナムを皮切りに再派遣を進めて参りました。安全と健康の確保を最優先としつつ派遣を継続し、派遣再開後の累積派遣人数は1,740名を越え、現在、世界各地で約1,250名が協力隊員として元気に活動しております。平常時と比較すれば、まだ派遣人数は6割程度ではありますが、2024年度中には新型コロナウイルス感染拡大前の派遣規模に戻すべく取り組んでおります。

23年度の春募集では「求む好奇心」というキャッチフレーズで募集を行い、約1,400名の方に応募頂きました。また、秋募集ではタレントの広瀬アリスさんを活用した広報を展開させて頂き、JICA 海外協力隊や国際協力について余り関心がないという方に JICA 海外協力隊事業の魅力を知っていただくきっかけづくりにも努めております。応募を迷っている方の背中をそっと押して頂いたり、具体的に協力隊事業の魅力を語って頂けるのはOV会の皆様しかおりません。引続き、皆様方のご支援・ご協力をお願いできればと思います。

マレーシアにおいては、コロナ禍後2021年12月から派遣を再開し、以後29名の隊員が派遣されました。2023年11月末現在、24名の隊員が元気に活動しています。その一例を紹介しますと、コロナ禍前の2019年4月にペナン島クレゴールに派遣された大西寛さんは、2021年3月に一時帰国を余儀なくされたもの



の、同年12月に再派遣されました。大西さんの配属先である「東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）・理科教育センター（RECSAM）」は、アセアン諸国の初等・中等理科教育の質的向上を目指し1967年にマレーシアに設立されました。大西さんはここで、外国教員等へ指導を行う講師に対し、日本の理科教育を研修コースで紹介したり、他教員との授業研究や研修員へのワークショップを行ったり、研修カリキュラムへの助言・教材開発・ビデオ制作などを実施しました。コロナ禍での一時帰国中も日本から遠隔支援を行い、再派遣後の任期満了までに41本もの理科実験ビデオの制作等を行いました。大西さんは、2022年12月に任期を終了しましたが、今年8月、同じ配属先に短期隊員として再び派遣され、対面講義に戻った各研修コースや、配属先で実施されているJICA第三国研修について、アフリカ諸国からの研修員受入れへの協力など、引き続き精力的に活動を行っています。派遣中隊員の活躍やJICAマレーシア事務所の近況は、以下FBでも更新中ですのでぜひご確認ください。

(<https://www.facebook.com/JICAMalaysia.official.site>)

帰国した隊員OV達の活躍も続いております。マレーシア隊員OVの小林義文さんが途上国のリハビリテーション普及に貢献したとして「リーダーシップ・イン・リハビリテーション賞」を日本人で初めて受賞されたのは記憶に新しいところです。小林さんはマレーシアから帰国した後も福井県立病院に勤務しながらタイやインドネシア、マレーシアなどでリハビリの技術指導や施設の運営サポートに尽力されてきました。また、福井県内の企業・団体と協力し車椅子などの寄贈も続けてきたそうです。小林さんは「経験を後進に伝えると共に、今後も途上国の支援を続けていきたい」とおっしゃっており、まさに『持続する情熱』を感じました。

また、本年6月にForbes Japanにて特集された「100通りの世界を救う希望『NEXT100』」には3名の協力隊OVが選ばれるなど、このほかにも沢山の隊員OVの方が活躍しております。このような取り組みを応援するため、弊機構による「社会還元表彰」を2023年より開始させて頂きました。途上国での活動から得られた経験が、帰国後に日本各地で地方創生や多文化共生社会づくりなどに大いに活かされるような好循環を生み出していきたいと考えております。

そのためにも隊員OV同士のネットワークを維持・発展させていくことが大切だと感じております。途上国で協力隊として活動したという共通の経験から、同志のような気持ちになれば、地域や世代を超えてつながれることは大きな財産だと思います。そこから新しいアイデアや隊員OVならではの社会還元活動が生まれたりするのではないかと思います。この中核に位置するのがOV会であり、OV会にはいつまでも元気で活発に活動して頂きたいと願っております。そのためにも、創設期の功労者の皆様を大切にしながらも、若い世代の参加しやすい環境や仕組みを整え、若い世代が面白いと思って活動に参加してもらえるよう取組も地道に進めていく必要があるのではないかと思います。必要に応じて世代交代も進めながら全ての世代が楽しんで参加できるようなOV会、青年海外協力隊マレーシア会にはそのようなお手本になって頂けるのではないかと期待しております。

現在、世界は複合的な危機に見舞われております。そのような時だからこそ、どのような美辞麗句を並べるよりも、一人の協力隊員が現地で汗を流していることが国と国との信頼関係には何より重要であると信じています。協力隊員を派遣して欲しいという要請に応え、一日も早く、一人でも多くの隊員を送り届け、隊員の皆さんには充実した活動を実施して頂けるようすることが青年海外協力隊事務局の役割と認識しております。

そのために、皆様と共に更に歩みを進めて参りたいと思います。何卒、引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
(2023.12記)

# マレーシアにおける日本マレーシア協会の活動について

公益社団法人日本マレーシア協会  
専務理事 新井卓治

## ●沿革と熱帯雨林再生活動

日本マレーシア協会は1956年12月に外務省の外郭団体として発足し、1979年、社団法人に組織変更、2012年、公益社団法人へと移行しています。

主な活動として、各種交流プログラム、熱帯雨林再生活動、会報発行配布、マレーシア書籍の翻訳出版協力、セミナー及び講習会、マレー語スピーチコンテスト、マレーシアの大学での日本語教育支援、両国青年を対象とした教育研修プログラムなどを実施しています。

中でも熱帯雨林再生活動は、1995年よりボルネオ島サラワク州において、かつての森林伐採によって劣化した保護林区におけるフタバガキ科等在来種等の植林を主とした低地熱帯雨林の植生回復に取り組み、2018年からは、マレーシア半島部クダ州においてマングローブ林再生活動を開始し、ボルネオ島と半島部の両地域で活動を展開しています。

## ●サラワク州における活動

サラワク州が位置するボルネオ島は、かつて熱帯雨林の宝庫でしたが、既にその多くが消失し、環境の悪化が進んでいます。マレーシア政府及びサラワク州政府は、1992年の地球環境サミット以降、熱帯雨林の保全に取り組んでおり、そのような中、日本マレーシア協会は同州の森林を管轄するサラワク州森林局と協働して1995年から同州保護林区で地域住民と共に熱帯雨林再生活動を行っています。2019年には、同州政府と協力協定を締結し、森林の再生と地域住民の生活改善を図るために、更なる協働関係を進めています。

これまでの成果として、約1,750haの地域（東京ドーム約370個分の面積）に約80万本の植林を実施したほか、地域社会との協働として、約7,000人の地域住民（小中高生含む）が植林作業に参加しています。その他、林道補修（5km）、苗床造成・整備（4カ所）、集会場造成（2カ所）を行ったほか、2カ所の活動地が保護林から国立公園（永久保護区）へと昇格しています。

また、2021年度から、外務省の「日本NGO連携無償資金協力事業」として、脆弱な水環境により生活が困窮している、植林活動地域村落の人々の生活改善を目的とし、「コミュニティ導水システム」の整備による水環境の改善、水源地保全のための植林、水環境改善によって生じる生活余力を活かした生活向上プログラム、自立的な水環境維持管理と生活向上プログラム実施の組織づくり、村や学校における環境及び衛生教育プログラムを実施しています。



1995年の植栽木と筆者



村落の水環境を改善

## ●クダ州における活動

クダ州ムルボック湿地保護林（4,176ha）は、マングローブ林の生態系に特有の 32 種の樹木からなり、世界で最も植物学的に多様なマングローブ林の一つであるほか、鳥類が約 80 種類確認されているなど、多様な生態系が見られます。しかしながら、周辺地域の開発や伐採等による森林の劣化、消失が進んでおり、森林だけでなく、地域に暮らす漁民の生活環境にも影響が出てきています。2019 年より、地域社会やマレーシア科学大学と協働し、マングローブ林の再生による生態系と炭素貯蔵地として貴重な湿地を保全することを目的とした活動を行っています（2023 年より、隣接するペナン州でも活動を開始）。

現地専門家の指導のもと、地域住民が参加して植林、保育、育苗作業を行っているほか、地域の住民グループやクダ州及びペナン州の学校や大学が参加する植樹プログラムを定期的実施しています。

これまでの成果として、約 4ha の地域に約 2 万本の植林を実施したほか、地域社会との協働として、約 200 人の地域住民、約 300 人の地域の小学生、大学生、学校教員らが植林作業に参加しています。その他、苗床造成・整備（2 カ所）、集会場整備（1 カ所）を行ったほか、地域の小学校で絵画や作文コンテストなど環境教育プログラムを実施しています。



日本人ボランティアも参加し植林活動



地域の小学生が育苗作業体験

2020 年 3 月から、新型コロナウイルス感染拡大による活動制限令が発令され、ボルネオ島と半島部の活動地域でもその影響を受けましたが、州政府の許可のもと、村人による育苗、保育、小規模での植林作業を行い、活動を止めずに継続することができました。

昨年から、活動地での小中高生や大学生が参加する植林プログラムが再開し、日本からの渡航も可能になりましたので、環境国際交流として、日マ両国青少年らが協力して、環境保全に取り組む活動にも、改めて取り組んでいきたいと思ひます。

### 「サラワク村落訪問ツアー企画」決定！

日本マレーシア協会、新井様の総会での講演を受け、懇親会ではサラワク植林ツアーの話で盛り上がり、ツアー企画ができました！！ 植林&灌漑プロジェクト・オランウータン保護地域などを訪問し、「発展と自然保護」を考えてみませんか？ とりまとめ・連絡係は FELDA 隊員 OG です。

催行日：6 月 12 日～15 日（11 日夜東京発で 12 日午前にくチンに到着できます）

費用：現地では村落訪問 RM100/日（植林体験の場合は別料金）

+ 航空運賃・空港移動・飲食費・宿泊費など

申込やご相談は下記フォームからお願いします（協力隊 OV 以外やご夫婦 & ご家族でのご参加も歓迎）

<https://docs.google.com/forms/d/1uNsx102M90WBsSqZKtUI9JxD1Drj1Fp0IPGuTfu9ka0/edit>

## 第6回総会での活動報告

～7年前から現在を振り返って～

植山 明日香 (2016年度3次隊 障害児・者支援)

9月17日の総会で活動報告をする機会をいただきました。協力隊での経験が自分にとって非常に大きな転機となり、思考や行動の軸となっていることに気づくこととなりました。改めて協力隊での活動を振り返ることで、現在の自分がしている仕事の意味を考えるきっかけとなりました。

### ●マレーシアでの生活を振り返って



マレーシアは食の充実が一番印象に残るものでした。辛いものや甘いものを、汗を流しながら暑い中で食べたことが記憶に染み付いています。今でもマレーシアで知った味が恋しくなることがあり、日本でお店を探して食べに行くことがあります。写真を会場の皆さんと見て懐かしむことができ嬉しかったです。食べ物はいつでも人と人を繋いでくれる気がします。活動のときもいつでもどこでも食べ物のお話。**Makan** でコミュニケーションができました。

### ●活動を振り返って

私は、クダ州内の福祉施設を巡回訪問し、スタッフの支援スキル向上のために障害児向けの遊びの実施や教材の紹介をしていました。活動を始めた時は、正直、何をすればいいのか、何を求められているのかわからず手探りで不安の中、できることを探してやろうとしていた気がします。その中で、自ら発信して動いていくことは学びとして今の自分に繋がっていることだと感じています。協力隊の活動を振り返ると、自分が得たことの方が大きく、その中でも何か現地の皆さんにとって貢献できていることがあればいいなあと思います。



### ●現在の自分



帰国後は大学院に進学し、活動の中で抱いた疑問を研究することになりました。自分の経験したこと、疑問点が学問として理論となり、言語化されていくのを感じました。研究の枠組みをもって、再び任地に行けたことも自分の考えが整理されて俯瞰して物事を見れるようになったきっかけだったと思います。研究を通じて、自分がこれから仕事としてやっていきたいことが明確になり、現在の就労移行支援事業所で働くことにしました。

障害のある求職者への支援では、人としての成長を一緒にしていますし、就労先となる企業とのお付き合いでは障害についての理解を深め、強みを活かして活躍するための方法を一緒に考えています。

冒頭の食のように、自分も人と人、人と企業、人と社会をつなぐ存在になれるように、いい味を出しながら精進していきたいと思っています。

最後になりましたが、マレーシア現地の方、協力隊の皆さん、帰国後に知り合った皆さんにはたくさん助けてもらい、大変感謝しています。ありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

## 第6回総会を終えて

青年海外協力隊マレーシア会  
会長 白山 肇

2024年元旦午後4時10分に「令和六年能登半島地震」が発生しました。本原稿を1月10日に執筆しており、発生から9日間経った現在でも輪島市・珠洲市を中心に多くの方々が困難な被災生活を送っています。また200名を超える尊い命が奪われた方々に対して哀悼の意を表します。地震発生当日には、私自身富山市にて震度5強による長い横揺れを体験しました。一刻も早い復興を心から祈願いたします。

さて、去る2023年9月17日に第6回青年海外協力隊マレーシア会総会を開催しましたところ、橘 秀治青年海外協力隊事務局長はじめ50名の方々が、北は北海道・東北そして南は九州福岡から参加して頂きました。総会終了後、日本マレーシア協会専務理事の新井 卓治氏の「マレーシアにおける日本マレーシア協会の活動」の講演と植山 明日香(平成27年度3次隊 障害児・者支援)氏による活動報告(本会報に掲載)がありました。懇親会では、足立 房夫育てる会顧問の参加も頂き、ここに関係各位のご協力に感謝申し上げます。



本総会は、2011年の本会設立から12年が経過した現況を振り返り、次に来る新しい旅立ちに向けた総会と位置付けています。発足から12年間、会長をはじめ役員、ブロック担当が変わらぬまま活動を続けてきました。活動を担ってきた役員が多くが70歳を超える高齢化となり、またこれまでのピラミッド型組織形態(会長→副会長→事務局長→幹事)による企画・運営に及ぼす形態化の進行により活動の停滞が顕在化してきたのではないのでしょうか。こうしたことが、新しい事業の創出や帰国してきた隊員に

とって魅力の薄い会としてのイメージが定着し、新会員登録の減少を招いたと考えられます。かかる現状分析から現役員を改選し、新しい世代にバトンタッチする良い機会と捉え、参加者の総意を求める総会として議論を重ねて参りました。その結果、現役員会は新役員が決定するまでの期間、暫定役員として新役員成立の基礎づくりに努めることで了承を得るに至りました。また、議論の中で役員会のリモート会議開催やSNS活用による活発な会員間の情報交換等が提起されました。

現在暫定役員会では、金子正美(平成1年1次隊 村落開発普及員)氏、平賀牧恵(平成1年1次隊 日本語)氏を核に進めていくことが承認されており、今後細部を詰めていく作業に取り掛かっています。皆様のご理解・ご協力宜しくお願いします。

### 現状と今後

総会を受けて2023年12月3日付で、マレーシア会幹事募集のお知らせをメール会員に配信いたしました。(郵送会員の方にはお知らせできず、申し訳ありません)

数名の方から参加できる旨、連絡いただいています。今後、オンラインでの会議を持ち、これからのマレーシア会の活動の在り方や役員の役割分担など話し合っていく予定です。

なお、暫定役員のうち白山肇会長、志岐文子事務局長、谷川与志雄幹事、坂部修一幹事、郡昭治会計、岡本省吾監事は退任を表明しており、前島明現副会長、高橋明美現副会長、佐藤元一現幹事、井上修二現幹事、は継続して役員を続ける予定です。新しい風が入り、会の活動も刷新されるものと思います。

## 総会風景

あまりに久しぶりで集合写真を撮ることを忘れてしまいました。



## マレーシア愛のこもったシルバニア人形

第6回総会に出席の河合さん(H18.3 村落開発)が写真のようなシルバニア人形を持参してくださいました。マレーシアの民族衣装をまとったシルバニアたち。かわいいで



すね。マレーシア愛がこもっています。

### マレーシア会の会員情報の公開について

第6回総会において、会員名簿を公開してほしい旨、要望がありました。

これまで会員名簿は事務局で一括管理して、公開はせず、メール配信もBCCで行って来ました。会員について知りたいという問い合わせがあれば、ご本人に確認の上、お知らせするようにしてきました。

総会会場では名前と隊次だけでも公開してはとの案も出ましたが、個人情報保護法の観点からは2項目以上の公開はできないとのこと。

つきましてはこれまで通り、必要であれば事務局にお問い合わせいただくようお願いいたします。

### 協力隊まつり 2024

今年も4月20日、21日の二日間、JICA市ヶ谷、地球ひろばで開催が予定されています。マレーシア会も出展予定です。また近くなりましたらご案内いたします。

### 原稿募集！

会員の皆様、この会報は会員間の情報共有のために発行しています。任期中の活動、出来事、帰国後の活動、日々の暮らしなど、会員の皆さんに伝えたいことがあればいつでも原稿をお送りください。皆様の活発な情報発信をお待ちしています。

**編集後記** 2024年は災害と事故で始まり、新年のあいさつも控えるほどでした。今なお多くの方が避難所で暮らされ、復旧のめどもまだまだですが、一日も早い復興を願わずにはいられません。マレーシア会は準備会から始まって丸14年。これまでほぼ同じメンバーで運営してきましたが、ようやく次へバトンタッチという段階になりました。新しい試みのもと、マレーシア会も刷新されるものと思います。さらなる進化と発展を願いつつ、佳い年となりますよう祈ります。

### 寄付のお礼・・・ありがとうございました！

大西益吉郎（昭和52.1）、前島明（昭和57.3）杉山知子（坂田OGの姉）、新井卓治日マ協会専務理事、中田真紀子（昭和57.3）、北山武猛（昭和48.1）より合計57,000円、切手10,192円分、ギフトカード3,000円の寄付をいただきました。ありがとうございます。（敬称略）寄付は大切に使用させていただきます。

なお、寄付は随時受け付けております。よろしく願いいたします。

振り込み先：

郵便局記号：10140 番号51611341

（郵便局外から振り込みの場合：店番018、  
普通口座5161134です）

口座名義人：青年海外協力隊マレーシア会  
代表 白山 肇

**事務局からお願い：**住所、メールアドレスを変更された時は下記連絡先までお知らせください。現在郵送で会報が届いている方で、パソコンのメールアドレスをお持ちの方もご連絡ください。メール会員として登録し、随時、共有情報をお届けします。

マレーシア会は国際協力サロン内に事務局を置きます。なお、この会報は青年海外協力隊マレーシア会会員と2010年の青年海外協力隊OB/OG会出席者にEメールもしくは郵送の形でお送りしています。配信を希望されない方はご連絡ください。また、会員は現在630余名となりました。まだ、会員登録されていない方には、是非マレーシア会のことお知らせください。

発行 青年海外協力隊マレーシア会  
会長 白山 肇

162-8433

東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5

JICA 地球ひろば メールボックス51

TEL：090-7186-1065（国際協力サロン）

MAIL：malaysia@ics-together.com

[https://ics-together.com/office\\_jocvmalaysia.html](https://ics-together.com/office_jocvmalaysia.html)

（2024.1.31 発行）